

軌道

スラブ軌道における突起代替装置の開発

菺中嘉彦 高橋貴蔵 淵上翔太 長沼光

スラブ軌道は、1975年に山陽新幹線の岡山-博多間で本格的に採用され、それ以降に建設された新幹線の8割以上に採用されている。スラブ軌道の突起コンクリート（以下「突起」とする）は、軌道スラブの水平変位を拘束するRC製の部材である。近年、一部の区間において内部鉄筋の腐食が要因と考えられる突起の損傷等が報告されており、早急に補修が必要とされる区間も存在する。しかし、突起は軌間内に位置しているため、営業線において抜本的な補修や再施工を行うことが非常に困難である。

そこで、鉄道総研では、営業線においても簡易に敷設可能で、かつ既設の突起と同等の機能を有する代替装置を開発した。本装置は、軌道スラブの隅角部において、水平変位を拘束する。さらに、線区によって異なる軌道スラブの

敷設状況（路盤・構造物形態、てん充層厚さ等）に対応した取付方法を提案し、所定の性能を有していることを確認した。

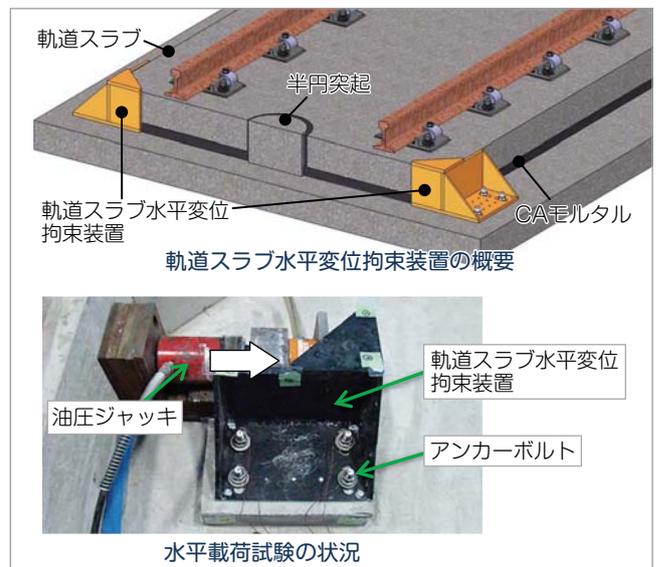


図 開発した軌道スラブ水平変位拘束装置